



1. 2階エントランススクエア  
2. 大劇場ホワイエ  
3. 大劇場



日建連表彰2021



第62回BCS賞

# 高崎芸術劇場

## 選定理由

【選考委員】  
野城智也・国府田道夫・賀持剛一

上信越圏と首都圏の交わる街、高崎は古くから交通の要所であり、現市街地のある高崎駅西口エリアを中心に文化、商業の集積地として栄えてきた。一方の東口エリアはこれからの高崎市の発展を牽引する重要なエリアとして位置付けられており、新たなまちづくりとして「存在感のある交流発信拠点」の形成が目指されているなかで高崎芸術劇場は、この中心的な役割を果たす施設として企画されている。

高崎駅からこの劇場までのアプローチにはエリア開発の軸となる屋根付きのペDESTリアンデッキが整備されており、開発に対する期待の高さがうかがえる。高崎芸術劇場は、文化の拠点に相応しくその活動を大きく映し出す「賑わいのスクリーン」を都市への顔として構

えている。シンプルでかつ迫力のあるカーテンウォールは、緻密なディテールと高度な施工技術により生み出されたことは一目瞭然である。スクリーンには高崎の伝統色「栗梅色」を再現した外殻を持つ大劇場をはじめ、複数のホールやホワイエを含む共用空間と利用する人々の流れ、そして音楽家の練習室までもが都市に映し出され、高崎の新たなシンボルとしても印象的な構成となっている。

地方管弦楽団の草分け的存在である群馬交響楽団の本拠地となっているこの劇場は、「選ばれる劇場」をコンセプトに建物といったハード面から運営のソフト面まで、最上級の施設づくりを内外にわたって展開している。大劇場では間口サイズを国内最大級のプロセニアム間口二八呎として舞台と観客の接する面をより広く取り、また客席の勾配も角度を持たせることによ

り、観劇的、音響的な臨場感が一段と高まっている。舞台裏も十分なスペースを確保し、搬出入、サポート施設、舞台設備など充実したバックスペースが設けられている。施工的にも前述したフレームを最小限とするガラススクリーンの工法や舞台上部スノコの鉄骨・舞台装置・仕上げ材・設備機器一体のリフトアップ工法、客席と天井の同時施工など安全性と効率性を両立した工法が検討・採用された。

開館後四カ月でコロナ禍に直面

したが、開館中は多彩なジャンルの公演が開催され、音楽専門誌からは「日本を代表する劇場の一つ」として紹介された。現在では公演についてはその運営も様々な制約を余儀なくされているが、それでも共用空間ではあちこちで学生や住民が勉強やリモートワークに利用する姿がみられ、市民に愛される施設である。まさに演者と観客、そして市民から「選ばれる劇場」が実現している。

## 高崎芸術劇場 概要

- 所在地 群馬県高崎市栄町9-1
- 建築主 高崎市
- 設計者 (株)佐藤総合計画
- 施工者 (株)竹中工務店、東鉄工業(株)、佐田建設(株)
- 竣工日 2019年7月22日

- 敷地面積 10,984㎡
- 建築面積 8,814㎡
- 延床面積 27,204㎡

- 階数 地上8階、地下1階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは  
左記のQRコードからWebページに  
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場／大宮区役所・大宮図書館／軽井沢風越学園／The Okura Tokyo/大倉集古館／渋谷ストリーム／昭和電工(大分県立)武道スポーツセンター／大丸心齋橋本館／高崎芸術劇場／知立の寺子屋／日本橋室町三井タワー／日本橋スマートエネルギープロジェクト／東大阪市文化創造館／福田美術館／松原市民松原図書館 「読書の森」／ミュージアムタワー京橋／ミライオン(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。